

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

1 調査対象（学校数、児童生徒数は特別支援学校を含んだ数）

	対象学校数	児童生徒数
小学校(第5学年)	305校	14,587人
中学校(第2学年)	162校	14,689人

※調査実施期間：令和5年4月から7月末までの期間

※特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒については、その障害の状況等を考慮して、参加の是非を判断。

2 実技に関する調査

【体力合計点】(80点満点) <小学校>

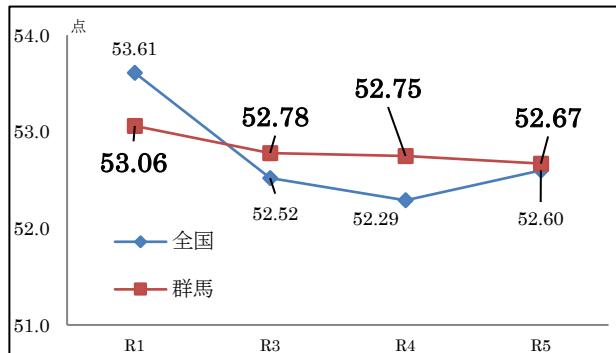
		令和5年度	全国比較
男 子	本県	52.67	+0.07
	全国	52.60	
女 子	本県	55.45	+1.16
	全国	54.29	

【体力合計点】(80点満点) <中学校>

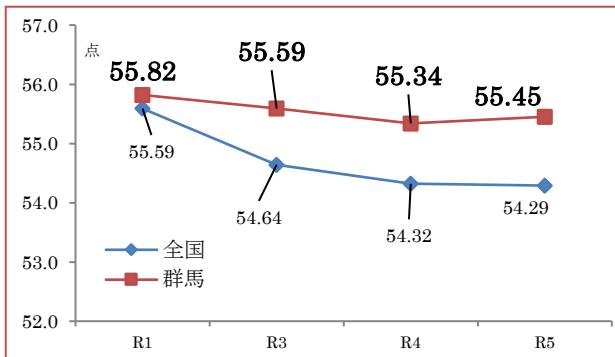
		令和5年度	全国比較
男 子	本県	41.60	+0.42
	全国	41.18	
女 子	本県	48.48	+1.40
	全国	47.08	

【体力合計点の推移】

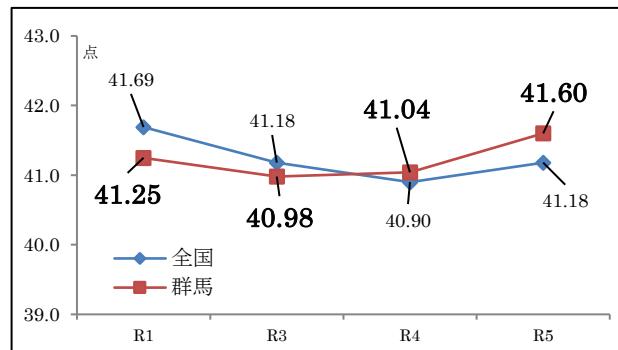
<小学校男子>



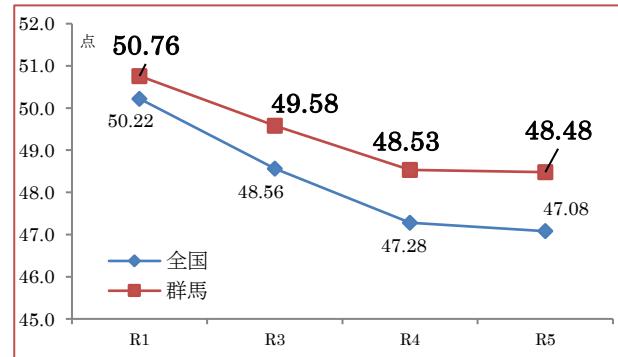
<小学校女子>



<中学男子>



<中学女子>



〈体力合計点について〉

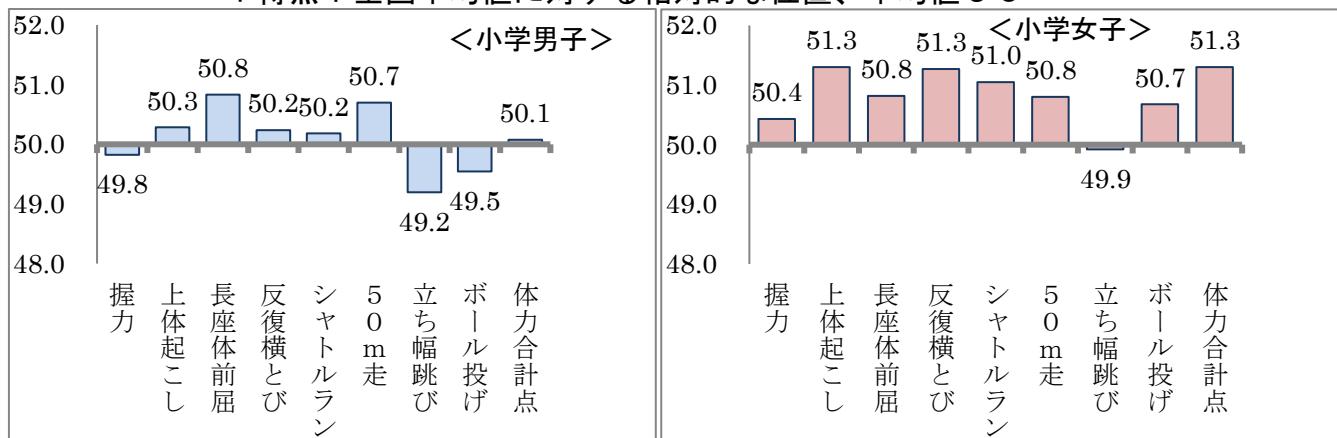
- 小学男子、中学男子は全国平均とほとんど差がみられなかったが、小学女子、中学女子は全国平均を上回った。
- 小学男子、小学女子、中学女子は前年度とほとんど差がみられなかったが、中学男子は、わずかに高かった。
- 小学校女子、中学校の女子は、ともに全国平均より高い傾向が続いている。

【各項目の結果】

〈小学校〉

		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)
男子	本県	16.06	19.17	34.74	40.81	47.29	9.47	149.25	20.14
	全国	16.13	19.00	33.99	40.61	46.91	9.48	151.16	20.51
女子	本県	16.19	18.74	39.21	39.69	38.48	9.64	144.17	13.54
	全国	16.02	18.05	38.47	38.74	36.81	9.71	144.34	13.22

T 得点：全国平均値に対する相対的な位置、平均値 50

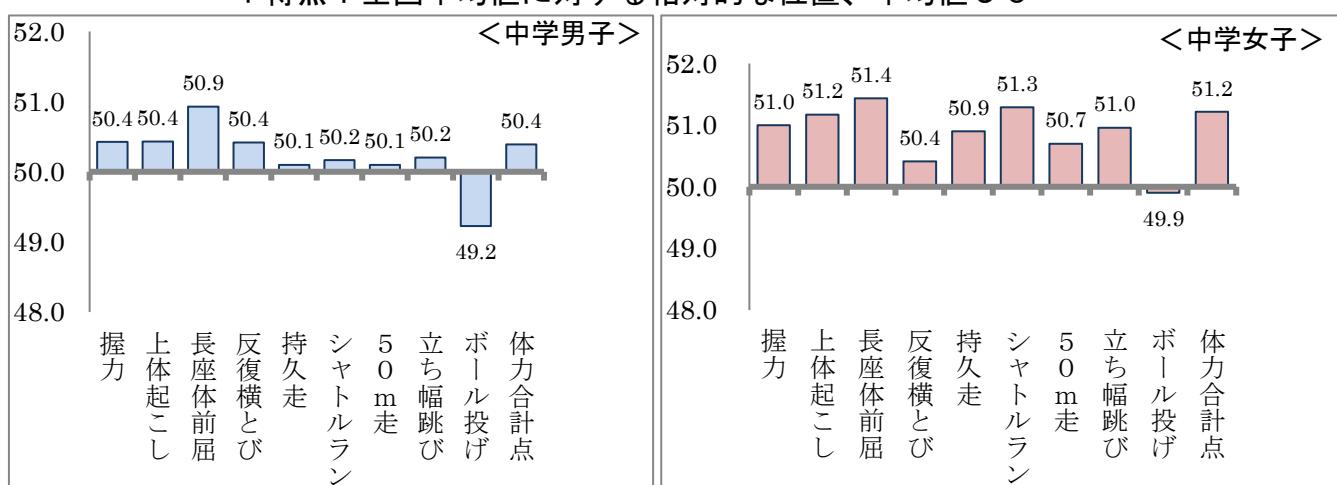


〈中学校〉

※持久走とシャトルランは、どちらか選択。

		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	持久走 (秒)	シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)
男子	本県	29.29	25.98	45.08	51.56	408.07	78.19	8.00	197.59	19.85
	全国	28.98	25.71	44.04	51.19	409.92	77.76	8.01	196.97	20.32
女子	本県	23.59	22.22	47.77	45.95	301.73	52.99	8.87	168.69	12.32
	全国	23.12	21.53	46.26	45.65	307.02	50.46	8.95	166.21	12.36

T 得点：全国平均値に対する相対的な位置、平均値 50



〈各項目における傾向について〉

○小学校において、男子は握力、立ち幅跳び、ボール投げ以外の項目で全国平均を上回っており、女子は立ち幅跳び以外の項目で全国平均を上回っている。

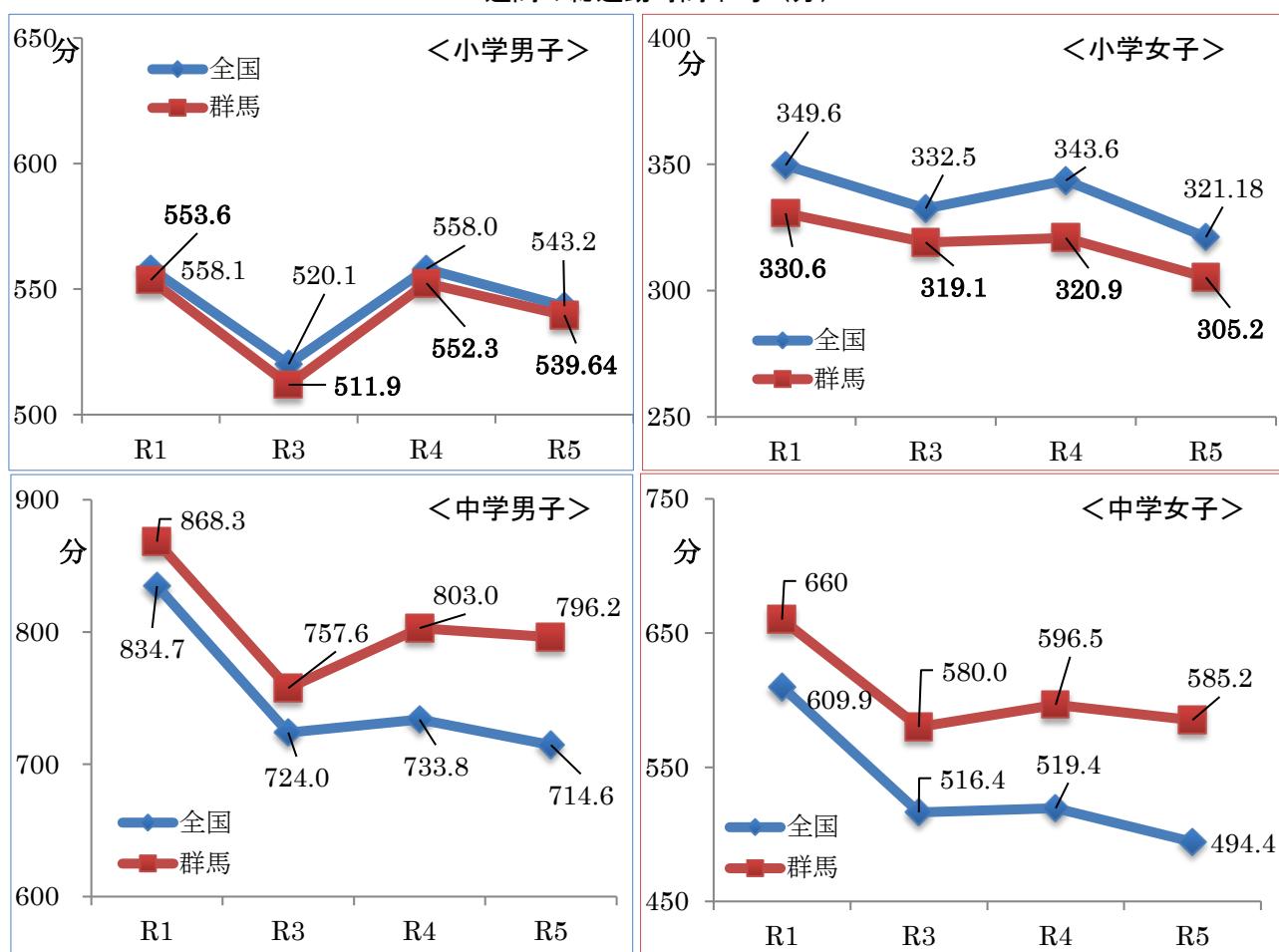
○中学校において、男女ともにボール投げ以外の項目で全国平均を上回っている。

3 児童生徒質問紙調査

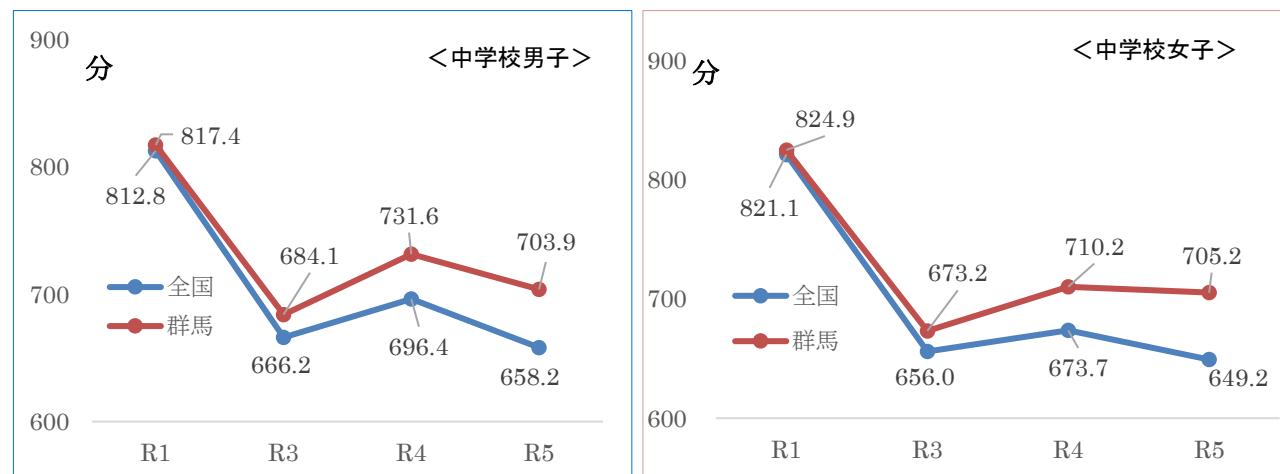
〈全国と比較したときの本県の特徴〉

体育の授業時間以外での運動やスポーツについて

・1週間の総運動時間平均（分）



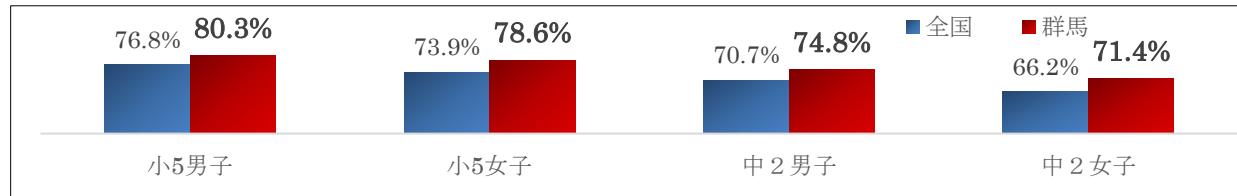
1週間の運動部活動実施時間（分）について（中学校）



○ 1週間の総運動時間平均（分）において、小学男女は、全国平均とほとんど差がみられなかつたが、中学男女は全国平均より長かった。

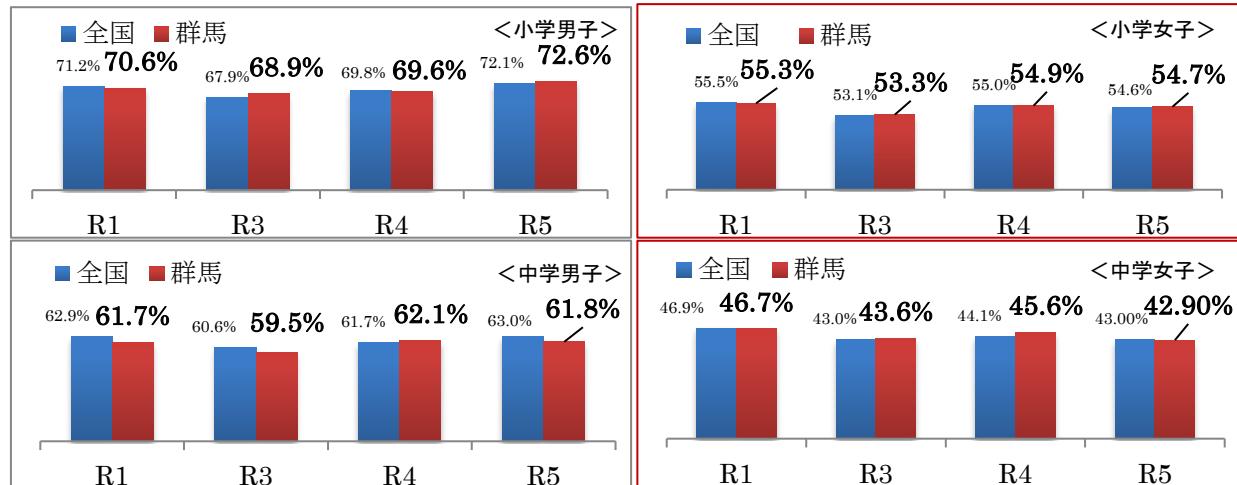
○ 1週間の運動部活動実施時間（分）において、中学男女とも全国平均より長かった。

体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てている児童生徒について



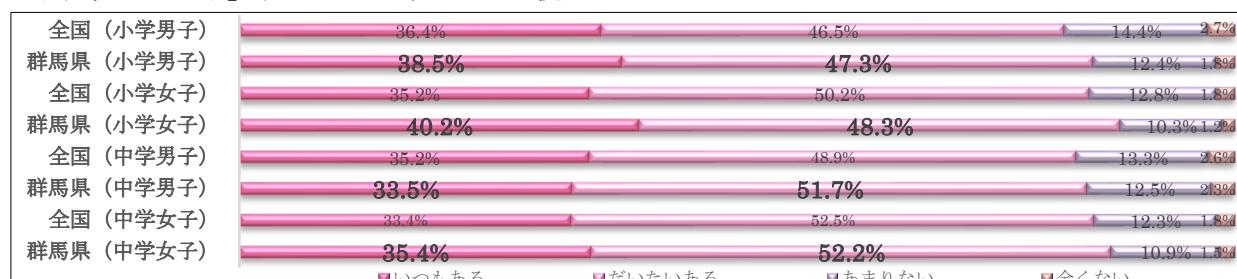
○体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てている児童生徒の割合は、全国平均と比べて小中学校の男女いずれも高かった。

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが「好き」と感じている児童生徒について



○「運動やスポーツをすることが好き」と感じている児童生徒の割合は、中学男子で全国平均と比べてわずかに低かったが、小学男女、中学女子で全国平均とほとんど差がみられなかった。

体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがある児童生徒について



体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがある児童生徒について

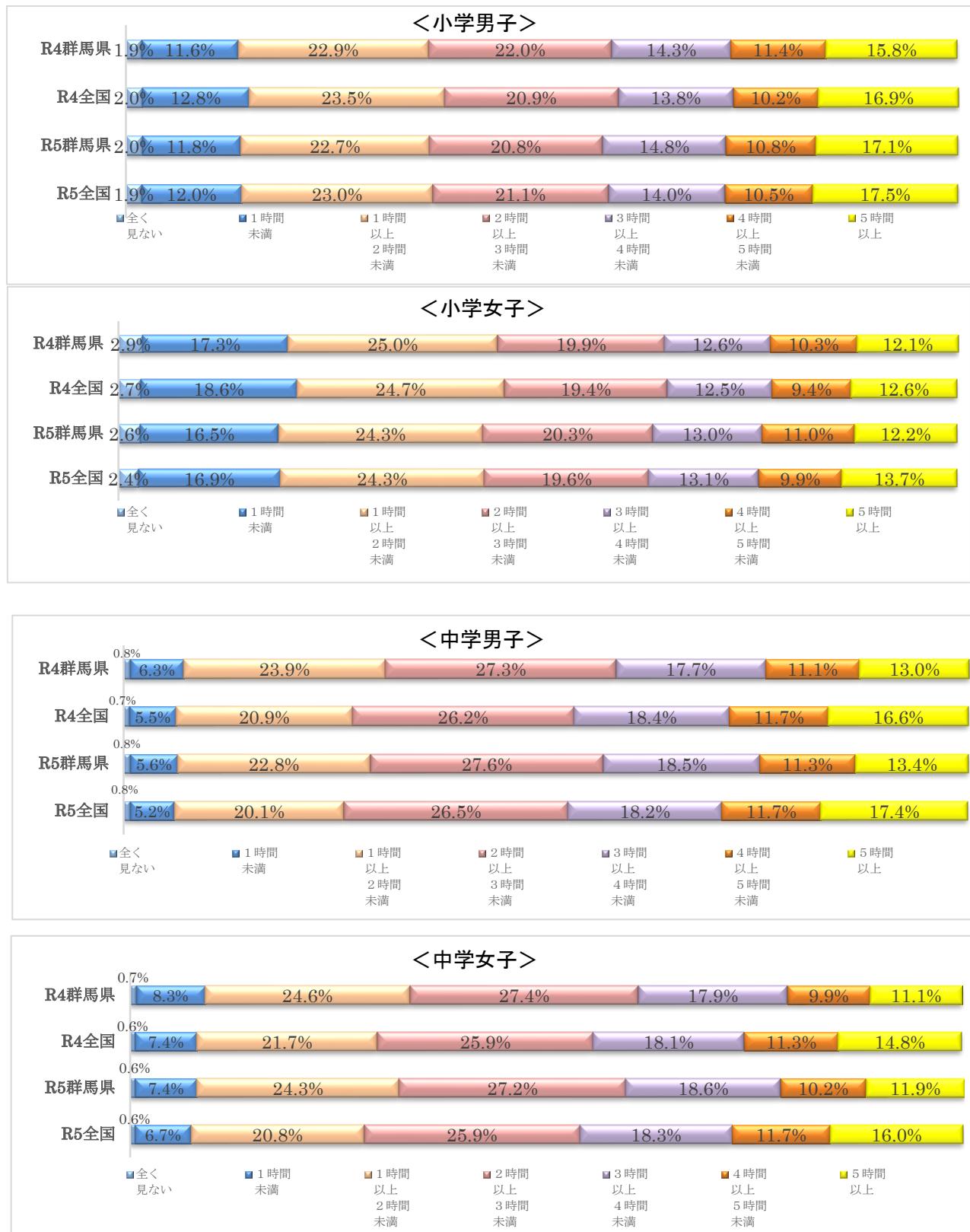


○友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することができる児童生徒は、全国平均と比べて、小学男女でわずかに高く、中学男女で高かった。

○タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することができる児童生徒は、全国平均と比べて、小中男女とも高かった。

○友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することができる児童生徒は、本県小学校男女で約8割以上、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することができる児童生徒は、本県小中学校男女で約6割以上であった。

平日（月～金曜日）の学習以外で、1日にどのくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ているか。



○全国同様、本県小中学校男女とも約6割の児童生徒が、平日の学習以外で2時間以上、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ている。

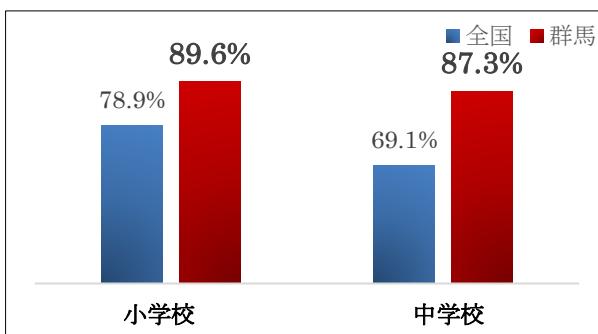
○平日の学習以外で2時間以上、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ている児童生徒は、全国と比べて小学校男女でほとんど差がみられなかったが、中学男女で低かった。

4 学校質問紙調査

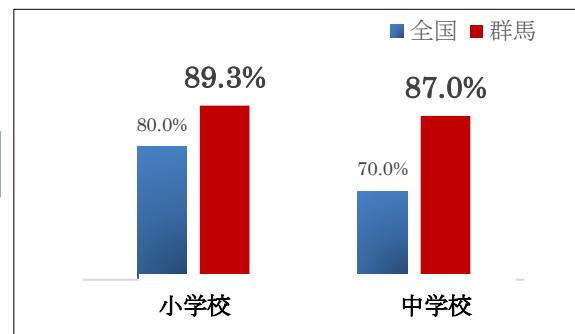
〈全国と比較したときの本県の特徴〉

学校全体として体力・運動能力向上の目標を設定した。

〈今回（R5）〉



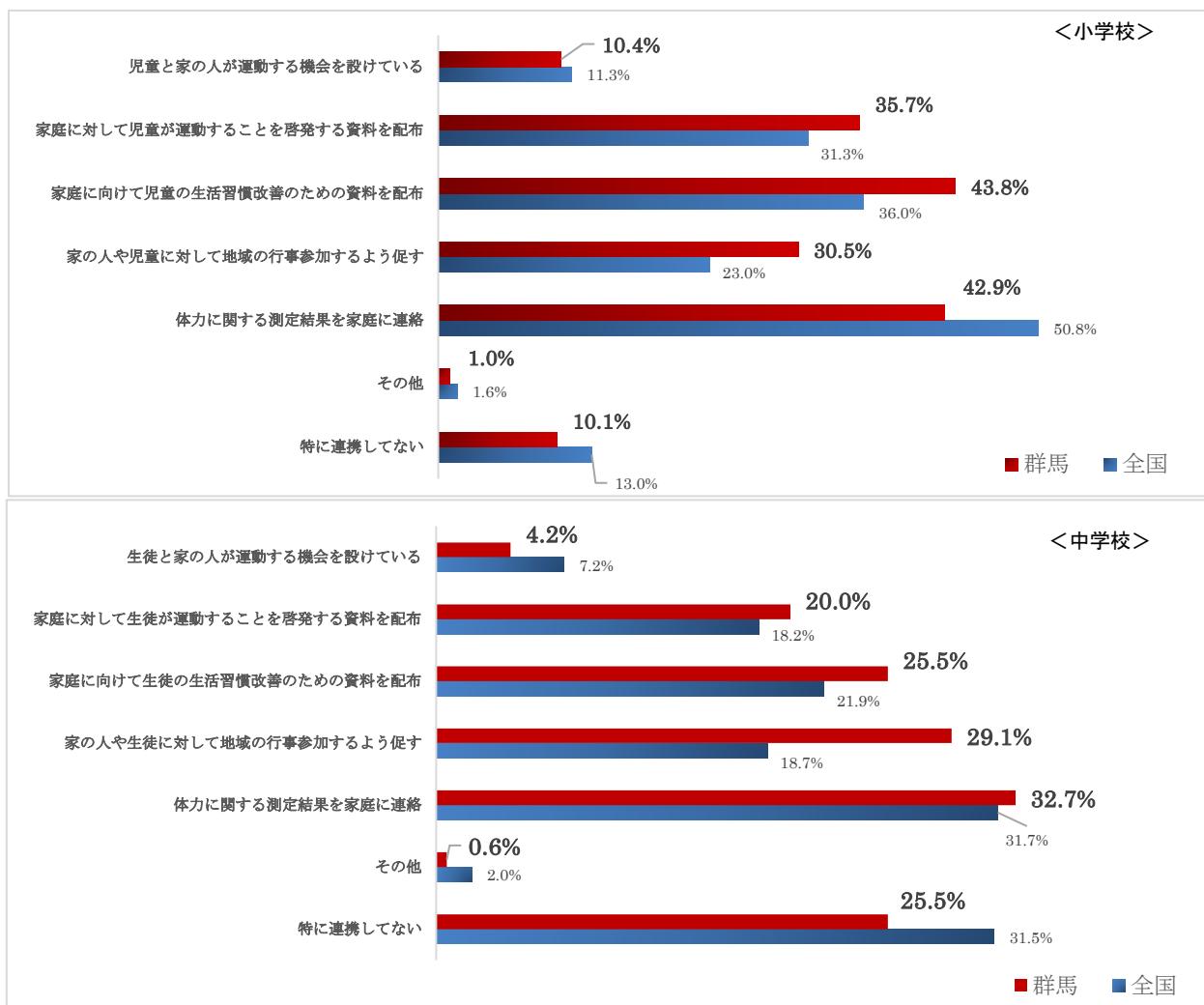
〈前回（R4）〉



○学校全体として体力・運動能力向上の目標を設定したことについて、小中学校ともに全国平均を上回った。また前回と比べて高くなっている。

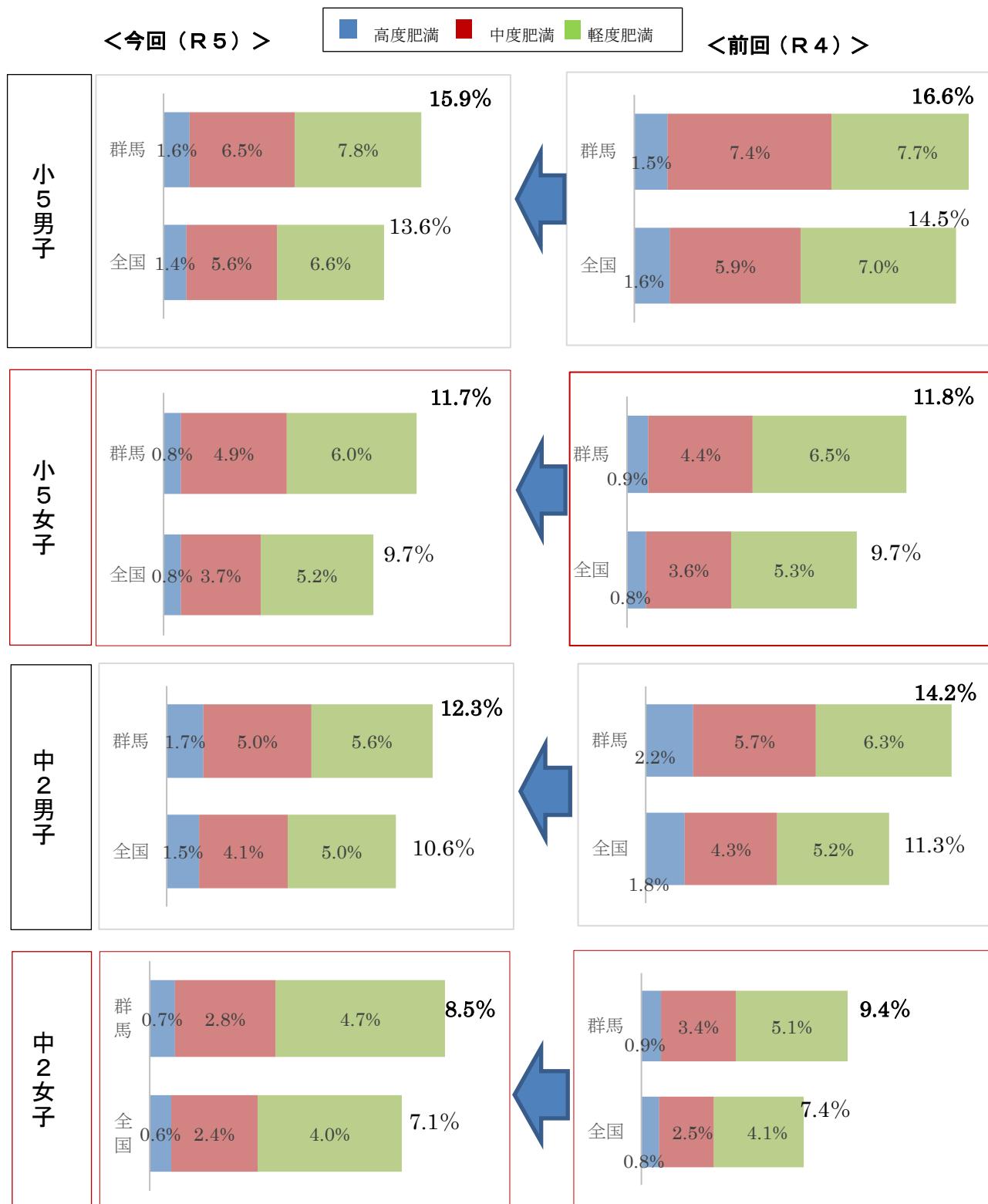
〈家庭との連携〉

運動やスポーツ、児童生徒の体力について、学校は、家庭とどのような連携をしているか。



○家庭に向けて児童生徒の生活習慣改善のための資料を配布したり、体力に関する測定結果を家庭に連絡したりする等、約9割の小学校、約7割の中学校が家庭と連携をとっている。

5 体格に関する調査 <肥満傾向の児童生徒の出現率について>



○肥満傾向（高度肥満十中度肥満十軽度肥満）の児童生徒の出現率は、全国平均と比べて小中学校 いずれも高かった。

○前回と比べて小学男子、小学女子、中学女子はほとんど差がなかったが、中学男子はわずかに減少した。

6 成果と課題

<成果>

- ◎小学女子、中学女子は全国平均を上回った。
- ◎県内全ての小中学校で、「体力向上プラン」に基づく取組を行っており、体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てている児童生徒の割合は、全国平均と比べて小中学校の男女いずれも高かった。
- ◎友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがある児童生徒は、全国平均と比べて、小学男女でわずかに高く、中学男女で高かった。
- ◎タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがある児童生徒は、全国平均と比べて、小中男女とも高かった。
- ◎友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがある児童生徒は、本県小学校男女で約8割以上、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがある児童生徒は、本県小中学校男女で約6割以上であった。
- ◎本県5割以上の学校（令和5年度5月学校体育に関する調査より）が、小学校高学年の体育授業で教科担任制を導入しており、学校全体で体育授業の充実に取り組んでいる。
- ◎家庭に向けて児童生徒の生活習慣改善のための資料を配布したり、体力に関する測定結果を家庭に連絡したりする等、約9割の小学校、約7割の中学校が家庭と連携をとっている。
- ◎中学男子の肥満傾向の児童・生徒の出現率が前回と比べてわずかに低下した。

<課題>

- 肥満傾向の児童生徒の出現率は、全国平均と比べて小中学校いずれも高い傾向が続いている。

7 今回の結果を踏まえた今後の対策

肥満傾向の児童生徒の出現率は、全国平均と比べて小中学校いずれも高い傾向が続いているが、前回と比べて、小学男子、中学男子、中学女子で低下した。

また、県内全ての小中学校において、「体力向上プラン」に基づく取組を継続的に実施していることにより、学校全体の体力・運動能力向上に関して目標設定している学校の割合や、運動やスポーツ、児童生徒の体力について、学校と家庭が連携している割合が高くなっている。

さらに、体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがある児童生徒は、本県小学校男女で約8割以上、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがある児童生徒は、本県小中学校男女で約6割以上であり、意欲的に友達や仲間とかかわったり、ICTを活用したりしながら取り組んでいる。また本県5割以上の学校が、小学校高学年の体育授業で教科担任制を導入しており、学校全体で体育授業の充実に取り組んでいる。

一方で、肥満傾向の対策を含め、児童生徒の健康的な生活習慣を目指した取組について今後も引き続き検討していく。

今回の結果から得られた成果・課題を踏まえ、体力向上にかかる情報提供や研修等をより一層充実させるとともに、以下の対策を重点的に行う。

(1) 県内全ての小中学校で取り組んでいる「体力向上プラン」に基づく取組を継続しつつ、体育授業及び体育授業以外での運動意欲を高めたり、友達や仲間とともに運動の楽しさや喜びを実感したりすることができるようとする。

※年度末には、体力向上につながる授業実践例等、活用できる資料を県内全ての小学校、中学校に配布予定。

(2) 家庭や関係機関（学校医や学校給食センター等）と引き続き連携し、児童生徒の健康的な生活習慣を目指した取組を推進する。